

亜リン酸肥料で黒大豆の増収効果があります

〔背景・目的・成果〕 兵庫県の特産品、黒大豆において、長期間の田畑輪換による地力窒素の消耗と、土壌病害などの連作障害により減収傾向にあります。そこで、大豆の生育初期に亜リン酸肥料を株元施用することで、莢数、収量が増加し、同時に連作障害も抑制されます。さらに亜リン酸肥料を従来の液状から粒状に改良し、省力的施用が可能となりました。現地でその効果が実証され、篠山市を中心に普及が進んでいます。

亜リン酸とは：

- 1 普通のリン酸に類似しますが、作物への吸収が極めて良い新規物質
- 2 肥料として登録（着莢・結実を促進、粒状と液肥の2タイプ有り）
- 3 根量を増加し、ストレスに強い丈夫な大豆にします

技術の特徴：

- 1 中耕培土時の通常の追肥と同時に施用でき、特に粒状は手散布が可能で、省力的
- 2 亜リン酸肥料の経費は粒状、液肥とも2400円/10aですが、約1割増収します

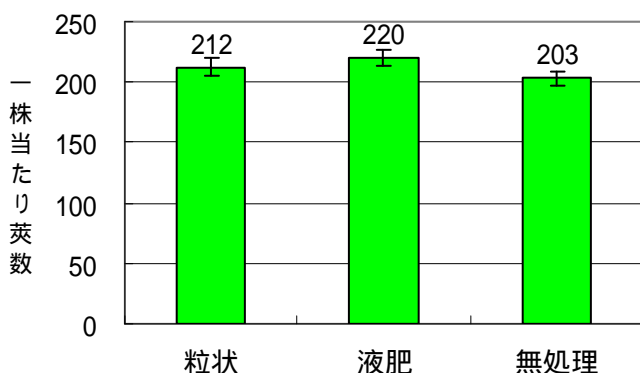


写真1 鈴なりの莢をつけた黒大豆

図1 亜リン酸の施用によりダイズの着莢数が増加します

粒状：7月1日、4kg/10a、液肥：7月1、15日、500倍、150L/10a株元散布

表1 亜リン酸肥料の施用時期と量

	6月末～7月初旬 (1～2葉期)	7月中旬 (5～7葉期)
粒状	4kg	-
液肥	500倍・150L	500倍・150L

10a当たりの量。液肥施用の間隔は2週間程度

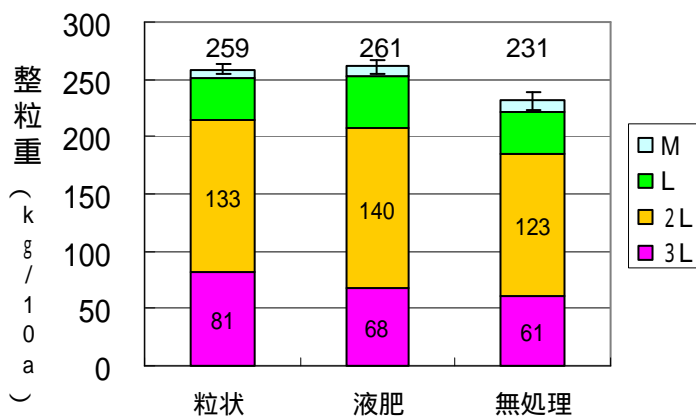


図2 亜リン酸の施用により収量が増加します
(小粒にならず、1割程度増収します)

粒状：7月1日、4kg/10a、液肥：7月1、15日、500倍、150L/10a株元散布



写真2 亜リン酸肥料は株元に施用します
(赤い枠内の白い粒が肥料)